イエスのことば　第 44 回

イエスは彼らに言われた。「エリヤがまず来て、すべてを立て直すのです。それではどうして、人の子について、多くの苦しみを受け、蔑まれると書いてあるのですか。」

（マルコ 9：12）

□イエスの公生涯の起承転結

起：受洗から、メシア宣言（紀元 27 年の春、過越の祭り）を経て、宣教開始まで

承：メシアとしての権威を現わす。しかし結果的に、指導者層の拒否を受ける

転：弟子訓練

結：エルサレム入城から十字架（紀元 30 年の春、過越の祭り）、復活、昇天

□文脈の確認

1. 転の部、弟子訓練。十字架まで、1 年余。
2. 紀元 29 年の春、過越の祭りの頃から、同年の秋、仮庵の祭りまでの、約 6 か月間において、イエスは、異邦人の地域へ 4 回、旅行した。異邦人地域への 4 回の旅行は、**退避（リトリート）と休息の時**であったと同時に、**弟子たちの訓練**を目的とした。
3. リトリート第 4 回、ピリポ・カイサリアへ行ったときの出来事として特筆すべきは、ペテロの信仰告白、そして高い山（おそらくヘルモン山）での変貌の出来事であった。
4. 前回は、変貌の出来事を見た。今回は、山を下りながら、イエスと 3 人の弟子たち（ペテロ、ヤコブ、ヨハネ）との間で交わされた問答である。

リトリート第４回ピリポ・カイサリア④　エリヤについての教え

マタイ 17：9～13、マルコ 9：9～13、ルカ 9：36b

□変貌の出来事の後、山を下りながらの問答

1. 背景
   (1) 旧約聖書の最後の預言者マラキは、メシアが来る前には、神は預言者エリヤをイスラエル民族に遣わすと、預言した。
   ① マラキ 4：5　**見よ。わたしは、主の大いなる恐るべき日が来る前に、預言者エリヤをあなたがたに遣わす。**
   ② マラキ 4：6　**彼は、父の心を子に向けさせ、子の心をその父に向けさせる。それは、わたしが来て、この地を聖絶の物として打ち滅ぼすことのないようにするためである。**　→　エリヤの使命は、イスラエル民族を神の民として整え、回復することである。

(2) バプテスマのヨハネについては、誕生に際して、天使ガブリエルを通して次のように神のお告げがあった。
ルカ 1：15～17　**その子は主の御前に大いなる者となります。彼はぶどう酒や強い酒を決して飲まず、まだ母の胎にいるときから聖霊に満たされ、イスラエルの子らの多くを、彼らの神である主に立ち返らせます。彼はエリヤの霊と力で、主に先立って歩みます。父たちの心を子どもたちに向けさせ、不従順な者たちを義人の思いに立ち返らせて、主のために、整えられた民を用意します。**

(3) しかし、バプテスマのヨハネは、ユダヤの指導者たちから「あなたはエリヤですか」と尋ねられたとき、きっぱりと「違います」と答えた（ヨハネ 1：21）。

(4) マラキの預言により、メシアが来る前にはエリヤが現れるはずである。実際にバプテスマのヨハネは、「エリヤの霊と力で、主に先立って」歩み、「荒野に現れ、罪の赦しに導く悔い改めのバプテスマを宣べ伝え」（マルコ 1：4）、イエスを指してメシアであると証言した（ヨハネ 1：26～36）。

(5) 疑問点
① バプテスマのヨハネは、なぜ、自分はエリヤではないと答えたのか？
② バプテスマのヨハネがエリヤの再来ではないとしたら、イエスはメシアではない、ということになるのか？

2. 山を下りながら、イエスは弟子たちに、沈黙のルールを、ここでも命じた。

(1) マタ 17：9b　**「あなたがたが見たこと（変貌の出来事）を、だれにも話してはいけません。人の子が死人の中からよみがえるまでは。」**

(2) ルカ 9：36b　**弟子たちは沈黙を守り、当時は自分たちの見たことをいっさい、だれにも話さなかった。**

(3) 弟子たちは、沈黙を守れという指示は理解したが、「人の子が死人の中からよみがえる」とは、どういう意味か、理解できなかった。

3. そのため。弟子たちは山を下りながら、イエスのことばについて互いに論じ合った。

(1) マコ 9：10　**彼らはこのことばを胸に納め、死人の中からよみがえると言われたのはどういう意味か、互いに論じ合った。**

(2) 弟子たちには、メシアであるイエスが死んでよみがえるとはどういうことか、理解できなかった。その理由は、旧約聖書のメシア預言を理解していなかったからである。
① メシア預言では、メシアが苦しみを受けて死ぬことと、メシアが王となって地上を支配すること、の 2 つが記されている。
② ここからメシアの来臨は 2 回あると分かるはずだが、弟子たちを含めて当時のユダヤ人たちはそれを理解していなかった。

③　メシアの来臨は２回あると分かるなら、マラキ４：５のエリヤ預言は、メシアの２回目の来臨の前にエリヤが遣わされること、という理解ができるはず。それが分からないので、次の質問が続く。

4.　山を下りる前、弟子たちは山上でイエスの変貌という出来事を目撃した。そのときにエリヤが現れたが、エリヤの姿は変貌の出来事が終わるとともに消えてしまった。そこで弟子たちはエリヤについて、イエスに質問した。

(1)　マルコ９：11　**また弟子たちは、イエスに尋ねた。「なぜ、律法学者たちは、まずエリヤが来るはずだと言っているのですか。」**

(2)　「まずエリヤが来る」とは、メシアが来る前にエリヤが来る、ということ。律法学者たちが言っていたのは、マラキ４：5～6 に基づいていた。律法学者たちの理解は、メシアが来る前にエリヤが来るという点では間違っていなかったが、メシアが２回来ること、メシアが２回目に来る前にエリヤが現れるという点での理解はなかった。

(3)　マラキの預言の中には、メシアの先駆者に関する預言は、もう１ヵ所ある。マラキ３：１である。

①　マラキ３：１　**見よ、わたしはわたしの使いを遣わす。彼は、わたしの前に道を備える。あなたがたが尋ね求めている主が、突然、その神殿に来る。あなたがたが望んでいる契約の使者が、見よ、彼が来る。――万軍の主は言われる。**

②　「わたしの使い」とは、メシアが来るときにメシアの前に来る人物である。ここでは「エリヤ」とは言われていない。無名の人物である。これは、メシアの１回目に来るときの預言である。この使いとなったのが、バプテスマのヨハネである。

③　「あなたがたが尋ね求めている主」、「あなたがたが望んでいる契約の使者」とは、メシアである。メシアが「突然、その（彼の）神殿に来る」とは、１回目のメシア来臨のときに起きることを預言している。実際に、ヨハネ ２：13～17 の出来事として起きた。

5.　弟子たちの質問に対して、イエスは次のように答えた。

(1)　マルコ９：12　**イエスは彼らに言われた。「エリヤがまず来て、すべてを立て直すのです。それではどうして、人の子について、多くの苦しみを受け、蔑まれると書いてあるのですか。**

(2)　エリヤの使命はイスラエル民族を神の民として立て直すことである。だとするなら、その後でメシアがイスラエル民族から苦難を受けるというのはあり得ない。よって、出来事の順序は次のとおり。

① メシアが１回目に来る。多くの苦しみを受け、蔑まれる。
② しばらくして、エリヤが来て、イスラエル民族を回復する。これは、メシアが２回目に来る前に起きる。
③ メシアが２回目に来る。メシアの王国が建てられる。

6. イエスは次に、バプテスマのヨハネについて語った。
(1) マルコ 9：13　**わたしはあなたがたに言います。エリヤはもう来ています。そして人々は、彼について書かれているとおり、彼に好き勝手なことをしました。**
(2) マタイ 17：12～13　**しかし、わたしはあなたがたに言います。エリヤはすでに来たのです。ところが人々はエリヤを認めず、彼に対して好き勝手なことをしました。同じように人の子も、人々から苦しみを受けることになります。そのとき、弟子たちは、イエスが自分たちに言われたのは、バプテスマのヨハネのことだと気づいた。**
(3) この２か所の記録を合わせると、次のようになる。
① エリヤ本人が来るのはメシアが２回目に来る前であるが、バプテスマのヨハネは、エリヤの予型として、メシアの１回目の来臨に際しメシアの先駆者として来た。「彼はエリヤの霊と力で、主に先立って歩みます。父たちの心を子どもたちに向けさせ、不従順な者たちを義人の思いに立ち返らせて、主のために、整えられた民を用意します」と言われたとおりに、彼は働いた。
② 「主のために整えられた民を用意する」という使命は確かに果たされた。
- マタイ３：5　**そのころ、エルサレム、ユダヤ全土、ヨルダン川周辺のすべての地域から、人々がヨハネのもとにやって来て、自分の罪を告白し、ヨルダン川で彼からバプテスマを受けていた。**
- ヨハネ１：35～27　**その翌日、ヨハネは再び二人の弟子とともに立っていた。そしてイエスが歩いて行かれるのを見て、「見よ、神の子羊」と言った。二人の弟子は、彼がそう言うのを聴いて、イエスについて入った。**
（二人の弟子は、後に使徒となるヨハネとアンデレ。アンデレはすぐに自分の兄シモンをイエスに引き合わせた。シモンはイエスからペテロという名を与えられ、彼もまたのちに使徒となった）
- 国外に居留するユダヤ人たちの中にも、バプテスマのヨハネの弟子が多数いた。
  - 使徒 18：24～28　アポロ
  - 使徒 19：1～6　エペソの弟子たち